

## 新人看護師教育に対する教育プログラム開発の取り組み

小寺直美、倉ヶ市絵美佳、滝下幸栄、岡山寧子、眞鍋えみ子

【目的】 本大学附属病院では 2009 年に文部科学省「看護職キャリアシステム構築プラン」に採択され、看護実践能力の向上を目指した教育プログラムとキャリア開発に関する取組を行っている。その主な特徴は、卒前卒後を包括した育成プログラムの開発、OSCE による看護実践能力の評価手法の確立である。そこで、H21 年度パイロット的にシミュレーション教育と OSCE を実施した。その教育の実践報告と今後の課題について報告する。

【実践内容】 新人看護師 46 名を対象に集合研修としてシミュレーション教育を行った。導入としてシミュレーション教育や OSCE の目的を説明し、腹痛時の鎮痛剤の静脈内投与場面のデモンストレーションを受講者の 1 名が実施した。その後、受講者の気づきや発見、学びを共有した。1 ヶ月後に希望者を対象にインシュリン投与場面の課題設定で OSCE を実施した。参加者は 8 名であった。課題提示 1 分、課題遂行 10 分、フィードバック 5 分であった。評価は独自に作成した評価票を用い看護学科教員と看護部教育指導者が行った。

【研究方法】 実施後に教育内容の理解度や有効性及び自由記述による感想や意見に関するアンケート調査をおこなった。

【倫理的配慮】 アンケートには、協力は自由意志で同意しなくても不利益を被らないこと、個人情報保護について明記し、同意の署名を得た。

【結果】 シミュレーション教育の内容については、アンケート調査より全員が理解でき、レベルは妥当であること、さらにその有効性を示した。OSCE に関しては、時間内に課題を遂行できたのは 1 名であった。さらにアンケート調査では 7 名は有効であると回答したが、1 名はあまり役立たないと評価していた。一方、提示課題のレベルは全員が妥当であるや受けたフィードバックは役立つと評価していた。さらに「客観的評価を受ける機会になった」「日々の看護実践の振り返りができた」という感想がみられた。看護実践への有効性を否定した者は、手術室で勤務していた。

【考察】 受講者の反応からシミュレーション教育は有意義で内容も適切であったと評価できる。OSCE に関しては 87%が課題を遂行できなかったこと、所属する部署によってその有効性の評価に差がみられることから、課題検討の必要性が明らかにされた。今後も実証的検証に基づき、看護実践能力の向上を目指した教育プログラムになるよう検討が必要である。